

立命館大学環太平洋文明研究センター第18回研究会

2017年12月18日(月) 18:00—19:30

立命館大学衣笠キャンパス学而館2階研究会室1

環太平洋地域における巨大地震と火山活動

高橋 学

(立命館大学文学部教授：地理学・環境考古学)



噴火が活発化しているクリュチェフスカヤ山（カムチャッカ半島）

これまでに発生した巨大地震をみると、そのほとんどは環太平洋地域に集中しています。また、巨大地震発生前後には火山活動が活発になる傾向が顕著です。ところが、「巨大震災」は必ずしも環太平洋地域に集中するわけではありません。そのメカニズムを検討します。2011年3月11日に発生した東北地方・太平洋沖地震などでは、巨大地震発生前に特徴的な内陸直下型地震が頻発していたことも明らかになりました。このことから、巨大地震発生を予知できる可能性を探ります。さらに、先月にJICAの一員として実施した南太平洋ソロモン諸島ガダルカナル島での予備調査結果についても報告します。

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

HP：<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rcppc/>